



⑤	下の有ふとあ	廿五丁	⑥	法く	廿四丁
⑦	又ゆとまり	廿五丁	⑥	こそてふえ	廿五丁
⑨	云のそすてふえ	廿六丁	⑥	そ極定はまり	廿六丁
⑩	治定とてふ字	廿七丁	⑦	そらん	廿七丁
⑩	治定のり	廿八丁	⑧	かき又地又	廿八丁
⑫	八字付所	廿八丁	⑧	一有云ふ成句	廿八丁
⑫	指合の汝法	廿九丁	⑩	同字別吟	廿九丁
⑬	句數并去嫌	卅丁	⑩	神祇之詞	卅丁
⑬	非神祇詞	卅丁	⑪	尺教之詞	卅丁
⑭	非尺教之詞	卅丁	⑪	戀之詞	卅丁

⑮	非戀詞	卅八丁	⑫	無常之詞	卅八丁
⑮	速懐之詞	卅九丁	⑫	非速懐詞	卅九丁
⑮	人倫之詞	卅九丁	⑫	非人倫詞	卅九丁
⑮	居所之詞	卅九丁	⑫	非居所詞	卅九丁
⑮	夜分之詞	卅九丁	⑫	非夜分詞	卅九丁
⑮	山類之詞	卅九丁	⑫	非山類詞	卅九丁
⑮	水邊之詞	卅九丁	⑫	非水邊詞	卅九丁
⑮	四季之詞	卅九丁	⑫	面句并裏順奉句	卅九丁
⑮	百韻并甲四分歌仙	卅九丁	⑫	臨席覚悟	卅九丁
⑮	執筆法撮	卅九丁			

○さうきん 下二丁目 ○おぼづきん

漢和式

- ① 第唱句之事 一丁目
- ② 二四不同之事 一丁目
- ③ 四字一平之事 二丁目
- ④ 避下三連之事 二丁目
- ⑤ 平仄起之事 二丁目
- ⑥ 漢和一座法式之事 二丁目
- ⑦ 對句之事 五丁目
- ⑧ 假名書之事 六丁目
- ⑨ 連綿字之事 七丁目
- ⑩ 二物之事 八丁目
- ⑪ 三物之事 九丁目
- ⑫ 底返之事 九丁目
- ⑬ 朱引之事 十丁目
- ⑭ 文字用の様事 十丁目
- ⑮ 假書文字之事 十丁目
- ⑯ 四季文字の事 同手終

① 誹諧之事

奥義抄云カシノ誹諧者コソケイ滑稽之コウキ也ケイコトバ不サルキ也
 史記滑稽傳考物云コウキ滑稽之コウキ也イコトバ出イコトバ成章コトバ記
サルキ不サルキ窮竭若コソケイ滑稽コソケイ也コソケイ○誹諧乃コソケイ字コソケイのコソケイ事コソケイ也コソケイ
コソケイらりて皆人言と云ふ必しもあらずけり今案にコソケイ滑稽
コソケイ物コソケイの道よりあはげてあらずる事のもの之又コソケイ誹諧ハ
 五道よりあはれし事妙義と云ふる事之故又是とコソケイ滑稽
コソケイに准コソケイそれコソケイ無コソケイ税利コソケイにコソケイあるもの言コソケイ諧コソケイはコソケイ火と
 毛水コソケイのコソケイ事也或ハコソケイ程云ありと妙義とあり

此中又みこめ詞ありとれる也

八雲御抄云或は曰俳諧有様之俳諧二詠三俳諧四滑
御云五階詠一詠一六謎字七空戯八部接九狂言一詠云
或義俳諧六折も心もに狂之俳諧六俵狂云おろし心也
俳諧六詠字ありとるは乃之詠詠心ありは空をどお地より
口して狂し之詠詠云海のけりしとある其の奥義拵れど
謎字云ぞくのやうに之空戯一向は戯て実とくもた也
詠後のや一詠と云くぞ云々之物云俳よかりとるに
しと詠云と云詠よらと火と水とまあげて云々云と云

② 俳諧六俵

心、狂	みまふ人れもる珠のよきや秋の月	可全
詞、狂	乃之付よみ代よりげ代やがり縄	正芳
心、利	員とまの右系おあういふとん	利冬
詞、利	ほご事あまけをききんく	其角
心、狂	小傾城ゆさてなぶらん年れ暮	と云
詞、狂	系流もつた見おる小の七云流	

右六俵引寄いづきも奥義あり見ええふありん
詠詠のちもけ六俵をいづる事あり我う好く
ありて他をそしほりきんく也

無常

うき事れおりの事か秋の樹

表傷

かく斗かりる波女やほいあう

辞世

我うとも四十世花の奉りか

遊善

さそそ成まんぢうも菊こても

懐旧

よいや志押る子もちほさう

述懐

義の山力やあくて菊をさけ

位移

落葉の荷果報くくの家の花か

名取

山吹やさうて蛙水の底

名物

かろうあやふねふ吹かるる地心

鷗水

和及

方山

依巻

軒柙

知足

鬼貫

尔云

鏡別

うの何よ志をささきハあかざひ

霰艇

擬行

みらあぬあをの喜や親あさず

暮四

絵瀆

月花れこれや海ことあ

名成

自益徳

あらしひけ我もさひき秋れこれ

全

如笑

かぐれや年くれ竹乃すれ代

哲醉

辨

親ハ谷子ハ山名乃かほとす

正由

文字

破さすふ分と人乃力り那

子春

古事

伊勢海老や縁たきうらほふ

事吟

本鏡

吾も白け下よきと杜

心能強	多ひ出て地ありき	柳	琴
神能強	梅乃ごきゆりび乃貝や斤抄ひ	鷺助	琴
心能強	脚濠をさるやとかんれ出らざる	素堂	琴
寝を強	月影をら柳りりれ心ありとる	巨雪	琴
老を強	うたぬやんぬれこれ梅からし	漢石	琴
地を強	傘エが目利を星に子向う家	信徳	琴
梅を強	富士よそよて三月七日八日	梅	琴
感懐の	吾が男に秋風定し一穂に二人	日	琴
只有強	去乃あともあくるよといふ		琴

梅を強	破き葉の石南の影出次鱗	調柳
かきこの	上、蠶もよも糶乃ほごさ	西吟
あめいふ	毒よほは梅もよほす	竹亭
又久字と下	皇に七夕牛の蠅	常矩
河乃縁よ	地よぎほくをういまるん天所	道柯
火もも	かろ統くわて澄波乃ん塩	如泉
あも	三ヶ月の梅ふちりた	不角
	本意乃ぬびり落るる	琴
	梅どられ乾りてに上野外	琴

さよふ成て菊はくらくらとさか
咲かしくふくむるぬぐはさうら
錯乃もて蓮さうら幸あられ
蓮瓶乃せといの中あうき葉さ
六月や峯の雲とく嵐山
かき音やゆれ櫓と地と捨小舟
ま喰い一宿とあんどつう終が
蓮池よ生れてきれ蛙ふれ
藤乃籠とあ人あうら終が

如月
目悦
助水
と茂
藻水
荷号
言水
和及

ぬきくたぐさきさ
三芳方聖へ花はほくひてふもあ
あうくかひひあうさ
殊乃書行やあさむと四ひら
あんうやきさあ
花さうき風や柳うらもの志

⑤俳諧三十体

幽玄侘 日よあまのーみあうやまさうら
行雲 天もむらうらるる電けみん足
廻雪 月風れ相もやあふ月ひら
長崎侘 峯乃雲すうらむもきあへ
高山 名月や聖乃うらまの影

作者不知
越人
梅盛
玄圃
凡北

遠白 澄河 翠律 物教律 不心 理世 狂民 至極 穠林

月乃岳を呼ぶる勢や天は丁
峰よとむむ水すはほや後乃城
世よとむて道踏あふかこつぶり
菊嶺ぬ母乃を世世仰まきこ
花の甲を澄へ上登う浅きあ
雄風乃吹まらり入り老良
山中や菊のちねれど湯の白ひ
兼あもて鶯竹よけりき
ちるむや祝と乃を所帯れり

探白 夜元 明水 在後 狂民 晨風 暮四

存直 花麗 松竹 竹柳 野可 秀逸 接群 写古 面白

鳴さる風虫を死ふよ夜登り
志る雲とらるるまきのあり物に雲
つらとわらぬ乃をれわ〜や
里うすそそ夕をねりさうりう風
元日や赤よゆりれを刀を心
唐橋乃をさへむよりねりあて
乞つくとらうらむ乃を〜乃山
都丹よりあつたあもあ〜らる
たつとてあまの糸れきさ

一笑 行亭 常友 野う 玄来 貞室 来山

あまのいづれに我にまよひ其の心は眞の海なるか
らむとわがまをなすまゝにぬれぬとあはれは
又連つ面くうもてまゝにぬれぬと能乃面く
出しもこれ百韻は婦人の廻りも百韻は用ひ給ふ業
はまゝにぬれぬとまゝにぬれぬと遠田萩乃面をの廻り
かしくぬれぬと能乃面もぬれぬと但けまゝにぬれぬ
かまゝにして能乃面もぬれぬとまゝにぬれぬと
佐例もまゝにぬれぬとぬれぬとぬれぬと
早苗もぬれぬと行田の里はぬれぬとぬれぬと

あまのいづれに我にまよひ其の心は眞の海なるか
らむとわがまをなすまゝにぬれぬとあはれは
又連つ面くうもてまゝにぬれぬと能乃面く
出しもこれ百韻は婦人の廻りも百韻は用ひ給ふ業
はまゝにぬれぬとまゝにぬれぬと遠田萩乃面をの廻り
かしくぬれぬと能乃面もぬれぬと但けまゝにぬれぬ
かまゝにして能乃面もぬれぬとまゝにぬれぬと
佐例もまゝにぬれぬとぬれぬとぬれぬと
早苗もぬれぬと行田の里はぬれぬとぬれぬと

は門を躍し中をさすりかた

こけりふ心かたしつ羽名別乃物よそを規操其意形
客之謂之棄胎はとりぬれちりくやゆらん

⑤ 委の切字

信徳

信徳 為曇りてまこふたれた林哉

信徳

景堂

櫻洲常乃そたぬの秋まで

景堂

湖春

猿うろ下はひきまぬひとの川

湖春

林下

まこおせもむハきくらひとやうか

林下

一言

霜たもちやうとよみある人ぬら

一言

なぐもぐ初雷れりあびり

知足

足志りあるよ代もぢもさきうら

信正

こまのりり海乃島屋秋乃くれ

一鉄

木のりり此果の有り海のとと

言泉

植のりり籐麻され乃かまつて

柹雨

そんれくも赤白く月ノ暮

玄衣

都らん小桶と鉈乾く

高政

独乃るあはくそん枯あ

周也

風志所かそくひきぐひ里

如琴

り
り
)

大ゆれ氷乃く人をあふるめり
いさしものこままりみり不板の雲
まゝとびまゝとてかたりたり
^{現在} 藤のふ相乃葉かたりひとあ
木係^キ 襖^キ 雲^キ まるるはよ^キ 櫛^キ あり
^未 冬^キ 舟^キ 人^キ 津^キ 茶^キ ぬるるな^キ 水^キ 山^キ
羅も柳又のあをたはせへり
花のくをくる人ゆくりと七風なり
何ものしーわくは隠袋裏なり

和之
荷翠
竹亭
山川
桐葉
野水
又鉞
竹翳
東海

ハ
ろ
ろ
ろ
ろ

花有て大ゆれこぬらあり
わが碎とく巻ふてゆはし花の花
くくべるおもあるといめまあり
行女みえりかきし花あり
般商者峰より喜納りくるお雲
世先て魚乃骨^カ 撰^カ のとそ^カ 生^カ 人^カ 魂^カ
彦と女乃^カ 雜^カ かきし^カ け^カ 義^カ 乳^カ 子^カ
白くぞ伽死又根と燦松あり
唐乃若神はゆぞあきりう八

常矩
松笛
土芝
軒柳
通達
方山
嵐寺
西文
意斗

あざ
いく
えれ
きう
きう
か毛
い川
とぞ
いさ

人におもひつゝあはれなりけり
みよりのこゝろをいづくにぞ
ぬふれ木葉あはれ秋乃あは
色まぬハ割りて 遊ユと斬キとれ
おとろ居りて石やううま初ハさう
紫刈てあはれおもふ寸雪は炭
あぢ去ふいづ所粒とて麦一穂
ほはゆが祇軍清水枯む乃去
承ハいぞむ又母ふ考きつて母

原水
其角
尚白
清三
常牧
明水
玄賢
季吟
軒栞

い
よ川
ぬ
えれ

いづらうたをちかよとゆが所ま
月ハい川底沢田又一おふき
白魚は鉾よあるおふ水乃あは
みるあはれうと斬りあはれ
蓮葉ハ買たふかあちてはれ
肉クまへとと義ニまそつりぬ高蒲賣
右足タビは表持四十に足と踏とぬ
けふイの鞭イりて進めれ極 狩
馬康とさかしてつゝあはれ

芭蕉
妙伴
自隆
幸花
山店
松叟
光雪
松木
赤雪

〇正
〇十六

や

こゝかゝる秋牡丹乃急おあゝるさ
 とくくわみそとて賣れとくいさ
 水とわ蝶も蔭もあゝくわど
 花多れわおよすく人まかぬ人
 竜崎やとまりありきて初雨
 白雪乃きんわ日月わうわ
 家いふちううわわくして島
 乃てる葉も残るさちれわ梅の
 如生 軒栞 梵外 随友 不及 其角 梅氏

下知

よきあへうあてせ

うちわいなるうとんんをの梓う
 心ゆくを炭スミ電はくわ芳野山
 小人子みいうつとあさのぬけさ
 常位とゆるまひあへ麻のさ
 ちく使はときうりあぢむ風
 けちてゆあまあうりぢあか
 うとにやをむらり中人仁王門
 さいあうと廓クワまをわああり
 唐崎乃まよあめわくあ
 志林 我思 正時 如泉 道初 彫堂 竹亭 竹着

〇上

〇下

れあきそりひがくー又ひうて切字に用ひるすつ
俱苗興ひらあそとくはまひぬもーかぬるつら仍男ス

二字切

目と書ぬくやあふ乃せ女七夕

風虎

ほもーの笑とましくんニツ星

風山

三字切

うぐみよ何乃あもあー梅乃花

真室

○六とほりー乃切字

茄オキあまハこととも踏と花乃雪

玉雪

葉コウあふく福乃あゆると門の妻

一春

○とよ切字有て下と哉留

煤スやとくめどぬる京乃あられ

梅洞

傳よふ後とあつる五文字をれとよ切字有てと哉とやまも也

○たり留

存タのひ茶屋もむとて人あ成よかり

可全

初ハツ萩とひつめくそふ妹よ成よかり

来心

傳よふ七文字并終とよと押とふとかりとあ守控と更留也

○三若切

同母トモあふあ中ふととあ初ハツ鑑カン

素堂

三辰切ともしかり

○大後り

うちまて。天竺系。きん一先 虎海
うちまて。きん一めとさうり也

○玄妙切

鴨子ちぬハコを鷹や切れん 林園
れこぬ乃ありハ三世志念をこむるぬふハ切ゆり
初んの軍トモガまぶき事ハハ切ぬ

○切字のくし可キ有が別白

乞ハくことんり疑ハる事方野ハ 真室

余乃 幸にぬらんをるもろの此業 和及
懶レやれてきんぬる人冬乃 蠅 其角
これハ白の切字が別ゆる事ハ切戻く初んて
まぶき事 再ハ切ゆ

右切字ハ大概カとゆきゆりれこハハ切字完
ハ切字ハ切字とくくきん一ハ切字
白とんゆるまきれぬ字ゆり

おとたぬるハ切字ハ切字とわたり
これハ切字ハ切字とわたり

とる人おりのまじりむと引ゆる

松が合のりふてらぐく様 づり

又むき乃二字の連続よもなまらうぬらんしゆき
殊り 高海乃能よ人乃れいあるるもふくむとけうめ
るまらうて可い定

⑦ 現在乃哉 くまか

現在乃哉 麦白トノマコウハシ黄赤を能引

うまか 十四載の故ととい月れそてぬうま

こわらむもゆ〜 能まま乃たむと信を乃しゆり

⑧ めー 可去 現在未集

あろー ちー 連ー 短ー けね現在

べー めー ぬきー けね現在

此ゆりの現在未集よとていづも切字

まー びー かりしきけ けね現在

これ切字よあらぬ

⑨ おりんぬ 不乃ぬ

たくと ちとぬ半 ちとぬ半 ちとぬ半 ちとぬ半
ちとぬ半 ちとぬ半 ちとぬ半 ちとぬ半 ちとぬ半

右ぬ乃あれ下に居乃あれうひて安ゆるの半切字

〇三

〇三

乃けし執事してさるるかよとふらぬきして切を悔む
又折れど細きういぢう声はありて平ぬもふらぬ
こも成事あり

乃ぬきえぬをれぬとてぬ ああぬ

まへげせでえぬかむうはばあぬぬ乃字ま
くまぬこたさるるあらばぬとあはれぬま

⑩七の乃ち流弟

呆いのち 乃ち香古用もこく流一まよ

社やハ愛られ切まよもあまらるらんと留居ぬまよ

ていぬのいぢやいとまよ

切や 呆^お猶乃^ホ極や志^まとて^{カキ}芝^{カキ}は^{カキ}残らん

此や^カふ^カ者^カと^カれ^カん^カて^カぬ^カの^カあ^カし^カ寸

控や 呆^{ライ}泉^イれ^イる^イ月^イ乃^イま^イの^イ志^イ中^イか

疑乃や ち^イの^イさ^イや^イ室^イう^イぞ^イあ^イら^イぬ^イん

此や^イふ^イの^イ方^イ毎^イて^イい^イぬ^イの^イい^イと^イま^イし^イす^イも^イや^イあ^イん

あや^イあ^イらん^イ又^イらん^イぢ^イの^イあ^イら^イぬ^イあ^イら^イぬ^イあ^イら^イぬ^イ

しらと^イかん^イと^イや^イ乃^イあ^イん

中乃や 雪^イと^イあ^イぢ^イや^イ極^イり^イあ^イみ^イえて

107

108

111

111

此の字は、
はるかに、
更級が月、
てらち

てらちがや月、
更級が月、

てらちがや月、
更級が月、
てらちがや月、
更級が月、

てらちがや月、
更級が月、

てらちがや月、
更級が月、

右の字は、
てらちがや月、
更級が月、

てらちがや月、
更級が月、
てらちがや月、
更級が月、

① 土

を
ハ
を
を

111

111

いれし人よりやまを

⑤とよまうらぶひのふ字有してと留ふは様

松云らぶ中よ何しよとくかれいしきあられ
うづいしよ字有してと留ふは様
とよまうらぶひのふ字有してと留ふは様

いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく
いよまきんあひのあしむの枝あきく

物とら一定のあしむの枝あきくと留ふは様

⑥ト乃らぶとてい

陰のいぬのあしむの枝あきくと留ふは様
中よいぬのあしむの枝あきくと留ふは様

此二のいぬのあしむの枝あきくと留ふは様

⑦下乃らぶとてい

舞ハ芝ノ月ハ其ノ名也

下乃らぶとてい
用ひきこころのあしむの枝あきくと留ふは様

⑤ 留

まゝのつらなと猫乃のすまじ
らるるべし、あつかりとつとつらひて多
蔵尾杖ありりせし
下は白乃のつらなとあつかりとつとつらひて多
とつとつらひて多
佛のつらひ証きくつら
つらなと下は白乃のつらなとあつかりとつとつらひて多
あつかりとつとつらひて多

⑥ 留

うま葉乃あり又塔二
小棟縄平と人おゆり
門徒乃あつかりとつとつらひて多
伏見れ焼場きつら
まゝのつらなとあつかりとつとつらひて多
つらなとあつかりとつとつらひて多
暮かた目つらなとあつかりとつとつらひて多
送り火ひつらなとあつかりとつとつらひて多

ウ

ウ

る

丸を折れ幾岐より 145

六つおやういそとあさるわう又いあくてえ
留しつ剣をわういそとあさるわうかかちあてふあは
やかじまういそとあ

① 六つおやういそとあさるわうかかちあてふあは

後よりてわういそとあさるわうかかちあ

膝よりをほいそとあさるわうかかちあ

炭取よりをほいそとあさるわうかかちあ

言は葉より骨おしぬいそとあさるわうかかちあ

ねてせけ

へ

徳めれといそとあさるわうかかちあ

親乃あさるわういそとあさるわうかかちあ

筆^{シヤウ}ぬりてわういそとあさるわうかかちあ

こお外あよあさるわういそとあさるわうかかちあ

はしをあひいそとあさるわういそとあさるわうかかちあ

② 丸よりいそとあさるわういそとあさるわうかかちあ

十九

伽那とめて侍とてあさるわういそとあさるわうかかちあ

十八

塔風より何直経しつ強乃よりいそとあさるわういそとあさるわうかかちあ

十六

それよりいそとあさるわういそとあさるわうかかちあ

145

145

十五 帆にそハ垂れおめりひりりも ね

⑨とぬ字

私にらんとうしんらんをいかにかきかき
いかにいかにいかにいかにいかにいかに
とぬとぬとぬ

あど 抱きこみしりりりりりりりりりり
をれ りいりりりりりりりりりりりりりり
いりりりりりりりりりりりりりりりりり
いりりりりりりりりりりりりりりりりり

や みらるーとてや 白髪ぬくせん

右ありくをゆぐあふ及り又らんをぬられぬ
白髪よてはらぐーとてや あつたぬれぬ
べいなるーりりりりりりりりりりりりりりりりり
あどぬー

⑩治定ーとぬ字

ろ 治定ーとぬ字
を ぬりりりりりりりりりりりりりりりりり
ふりりりりりりりりりりりりりりりりり

首座 シヤサ 住持 ヂウヂ 典主 テンヌ 書記 シヨキ 行堂 ギヤウダウ 僧正 ソウジヤウ 僧都 ソウトウ 注下 ホウシヤ
 注眼 ホウケン 注橋 ホウケウ 阿闍梨 アジヤリ 持杖 チシヤウ 頌字 ソウジ 坊友 ホウユウ 法師 ホウシ 注神 ホウシヤ
 禪門 ゼンモン 入道 ニウダウ 急心 キウシン 新教 シンキョウ 比丘 ヒクニ 比丘尼 ヒクニ 尼坊主 ニボウヌ
 坊 ホウ 大坊 オホホウ 六坊 ロクホウ 里坊 リホウ 僧 ソウ 老僧 ラウソウ 小僧 コソウ 後 ノチ 出家 シュツカ
 沙門 サモン 素門 ソモン 新氏 シンシ 沙弥 サミ 寺 テラ 律寺 リツジ 真寺 マシ 山寺 サンジ 古寺 コジ
 三井 サンヰ 初 ハツメ 塔 トウ 中 ナカ 寺 ジヤウ 堂 ダウ 後 ノチ 古堂 コダウ 尺 シヤク 護 ゴ 廣 コウ 堂 ダウ
 伽藍 カラン 塔 トウ 尾上 ビノウ 塔 トウ 中 ナカ 塔 トウ 石 シヤク 塔 トウ 九 ク 輪 リン 藏 ザウ 回廊 クワイロウ 方丈 ホウシヤウ

廚 クリ 眠 ミン 菴 サウ 屋 ユシ 行人 ギヤウジン 山 サン 伏 フツ 臥 フイ 輪 リン 室 シヤウ 袈裟 カサ
 珠 シユ 數 ズ 急 キウ 珠 シユ 帽 モウ 子 ス 花 ハナ 四 シヤ 輪 リン 拂 フツ 子 ス 印 イン じ シ
 修 シユ 行 ケウ 道 ダウ 師 シ 唱 カウ 食 シヤク 鉢 ハチ 扣 コウ 看 カン 經 キヤウ 卯 ウ 塔 トウ
 五 ゴ 輪 リン 素 ソ 絹 ケン 十 シウ 德 トク 臥 フイ 襟 キン 條 テウ 懸 ケン 金 キン 剛 コウ 杖 シヤウ 換 ケン 喚 ケン 鐘 シユウ
 危 キ 鐘 シユウ 鏡 キヤウ 鉢 ハチ 釘 テイ 窮 キウ 木 モク 魚 イサ 瑠 ロ 環 エン 經 キヤウ 帷 ヰ 子 シ 袴 ハチ 尺 シヤク 采 サイ
 談 タン 義 ギ 論 ロン 義 ギ 座 ザ 禪 ゼン 灌 カン 頂 テイ 施 シ 我 ガ 冠 クワン 布 フ 施 シ
 功 ク 德 トク 因 イン 果 クワ 地 チ 獄 ヨク 流 リュウ 者 シヤ 三 サン 界 カイ 十 シウ 界 カイ 常 シヤウ 灯 テイ 火 カ

目二

目五

新入嫁入婚礼 新入嫁入 婚礼 新入 婚礼

傾城 傾城 傾城 傾城

揚名廓 揚名廓 揚名廓 揚名廓

舞妓 舞妓 舞妓 舞妓

小姓 小姓 小姓 小姓

女 女 女 女

密言 密言 密言 密言

私言 私言 私言 私言

神門 神門 神門 神門

侍 侍 侍 侍

人目 人目 人目 人目

好 好 好 好

名 名 名 名

待 待 待 待

白 白 白 白

後 後 後 後

後 後 後 後

後 後 後 後

後 後 後 後

コヒキミ シニカ テウシヤ アシマツメ フヤコ フヂ フバ
 色好お下長者嫂妻親子伯父伯母
 ギイバ シウシウ トメイニゴ ケチコセウフテ
 祖父祖母姑舅娘姪孫後乳兒射部母
 フシシノウ タユフシテウヤロウ ケイヤイ シラヒラシユナ タウシシヤ
 御師 徳を失位下野良傾城白梅子湯女公者
 トジ フトコラシナトモタチ ナイキ シヤウ カツシキ タウシテ
 屠兒男女友達四義師近唱食日名
 シンホキ ハカセ ハシモリ フアラサ ムコ マラトコ サクエヒカガハリ
 新祭をこねて 橋守舟長等家史酒碎等張
 ハチタキ 子ヲ ヨシノ クツツ キヤウシシ ジエ セイケン
 待お孤吉野の園猫牙入相人僧の習習
 孔子 志願を始る人倫を其より公家より人倫とのれ家と
 物とわきまをせり 儒者の人倫とては子の心とてはぬ

⑤ 非人傳綱

トウダク クワシヨモシキクゲ ニカト マシウウヨフシホシ
 東宮皇女門跡公家帝宮親王女院本院
 セントウ シンイン タイン フホキミ ミゲン マタマ ヤマシ セシ
 仙洞新院太子大臣人間入道山姫仙人長き
 イキモシウケ ロクシシ フキウ サシキ キウシ テシヤクゲコ をゾク
 一門一家六親を行新式給任典業下女眷屬
 ソシシ シヒメ ワカキミ ホシダ ゲクハ マリ ラウシヤクゾクホシイ
 祖師橋姫我君本道外科二人老翁俗大將
 セイロハ シキダ ツボ フシ モウモク ダイウシ
 將攝人形聾啞盲目代後月と友花と友月と
 乃一もとと酒又碎ぬや
 いふもの法商賣ものいふ乃字
 いふれ人傳よりいふこと

あろりのこがらも
蓮葉かざり
あろりのこがらも
あろりのこがらも

甲子年
かきおが
秋のころもかき
とりの元日
依子
推
年

遊久海とゆくと
と
破
玉

くねはく
破
玉

夏川
夏川
夏川
夏川

る乃り
る乃り
る乃り
る乃り

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

初高
初高
初高
初高

白馬節會 七日 靈辰 七日

人日 七日 帳又 七日 菜橋河神

事 七日 箕尾富実 七日 玄宮院御終法宿主人

御齋會 八日 女叙位 八日 女王祿を授人 八日

大元師法 八日 常陸常乃神事 十日 鹿嶋乃

除日 十一日 夷祭 十日 帳内 十日 鎌召乃

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

御齋 十日 論義 十日 男端款 十四日 十四日 年

吉田清秋 十九日 具足清秋

二十日 正月 魚解と蛭

都波鴻

祭 下五日 内宴

外記乃改治 御忌 十五日 福寿草

節振舞 東風 少ゆく

凍とく 魚水

雪ゆく

雨水乃節 正月 御魚と祭 水鳥轉

木乃月 下のえ 莖立 鶯菜 水入菜

野菊 菝菹

根白草 茨子

野大根 梅

香薷 柳

果鳥

百千鳥

キキ 木地燵縁 依保姫 三月二 乃ざの

暖同 ぬめらむ 河還 ぬき系 飯定

万々楽 春鳥羽 梅ぐえらふ

子月夜 常夜 梅枝の夜 松乃花 みるみり

十才り 霞 三月ふりくる 八重鹿 鹿乃衣

白魚 旬の魚 下緒 青苔

葩葱 山椒乃枝 野老

雲乃衣 霞乃洞 喜麻気氏

二月

仲ま 夾後 物見月 小正月

中和節 二月 初午

東福寺 日水同寺 初午 本妙寺

秦 初午 欽生子 乃稗終て入て人ぬりぬお送とつり

釋眞 二月 上日 園井 韓神

条 上日 大原野条 上知日 祈年条 習大林文取

度乃形と移りやもぬ条 絨園 八講 列見 十一日

云郷条共納言外記史を冠よむ 吉野乃解くらり 朔

とくしりて方ぬ友うておとるる

水屋修三日四日五日 廣津三日 龍田祭四日 山崎月五日 使六日

三月八日 願祭一月 擬階二月 擬階三月 擬階四月 擬階五月 擬階六月 擬階七月 擬階八月 擬階九月 擬階十月 擬階十一月 擬階十二月

灌佛八日 戒壇堂九日 山崎祭十日 平安天神祭十一日 日吉祭十二日

鷹鳥入鳥屋十一日 多族祭十二日 伊勢新衣祭十三日 中山祭十四日 吉田祭十五日

加茂乃祭十六日 久世祭十七日 去塔會十八日 日光祭十九日 菅宮二十日

三枝祭二十一日 向日神祭二十二日 松原祭二十三日 煮酒二十四日 ぬのり二十五日

茗乃花二十六日 芍薬二十七日 牡丹二十八日 杜若二十九日 杜若三十日

三枝祭三十一日 向日神祭一日 松原祭二日 煮酒三日 ぬのり四日

茗乃花五日 芍薬六日 牡丹七日 杜若八日 杜若九日

三枝祭十日 向日神祭十一日 松原祭十二日 煮酒十三日 ぬのり十四日

茗乃花十五日 芍薬十六日 牡丹十七日 杜若十八日 杜若十九日

三枝祭二十日 向日神祭二十一日 松原祭二十二日 煮酒二十三日 ぬのり二十四日

茗乃花二十五日 芍薬二十六日 牡丹二十七日 杜若二十八日 杜若二十九日

三枝祭三十日 向日神祭三十一日 松原祭一日 煮酒二日 ぬのり三日

茗乃花四日 芍薬五日 牡丹六日 杜若七日 杜若八日

三枝祭九日 向日神祭十日 松原祭十一日 煮酒十二日 ぬのり十三日

茗乃花十四日 芍薬十五日 牡丹十六日 杜若十七日 杜若十八日

三枝祭十九日 向日神祭二十日 松原祭二十一日 煮酒二十二日 ぬのり二十三日

茗乃花二十四日 芍薬二十五日 牡丹二十六日 杜若二十七日 杜若二十八日

三枝祭二十九日 向日神祭三十日 松原祭三十一日 煮酒一日 ぬのり二日

茗乃花三日 芍薬四日 牡丹五日 杜若六日 杜若七日

徴丙 黄柳毛 虎が洞雨 六月八日 祇園花洗 共洗 日

中夏生 五月廿中 富士垢離 蟬乃初聲

常吉と入 去菰刈 藤乃花 藤乃花

藤刈舟 萍花苑 和布と所 百合 花ゆりさゆり

車百合 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

末摘花 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

石葛 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

蕙 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

夜盆子 本つらとくつらとく 天蓼 蚊帳糸

妙くもみ乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

藜花 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

南天乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

椴 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

杏子 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

回可 花乃苑 花乃苑 花乃苑 花乃苑

葛水 子飯 者夷冷 赤ら漬 麩を
 梅しき 梅漬 早桃 楊梅
 李林檎 百日紅 梅子 澤
 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮 蓮
 浮 骨 善治花 蒲の穂
 海雲 荒布 竹乃皮取
 蘭 鉄線花 眼皮 凌霄花
 海草 虎尾の花 風蘭 狗脊草 銀

寶珠 麒麟草 芥子 青石灯
 赤草 水 麻 甘荷 葛花 綿
 乃花 香薷散 蒜乃根 瓜
 南瓜 夕葵 小角豆 ねり 雲雀
 瓢箪 蝉 蠶 蚕
 夏虫 日暮之虫 夜半之虫 朝之虫 夕之虫 冬之虫 春之虫

燈のり夜 産屋は忌 乞巧天 乞巧のつと 乞巧針 乞巧のつと

七箇池 百黙の池 芋乃葉 芋の葉 本願寺門跡乃糸乃花 本願寺門跡乃糸乃花

七日御前供 内膳司より 未系餅 未系餅 飛多野家七夕乃鞠 飛多野家七夕乃鞠

送乃 送乃 炭入 炭入 珠念 珠念 六道糸 六道糸

核賞 核賞 藤玉 藤玉 身玉 身玉 新綿 新綿

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

清水寺千日糸 清水寺千日糸 中元日 中元日 孟蘭盆 孟蘭盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆 盆盆

菊の根もとみぎ茶の白
 観音草にうらむあり
 暑珠波花
 秋の蚊
 胡蝶
 松虫
 喜虫
 益母草
 番椒
 蔓麻
 蓮花
 早回
 萩乃花
 薤豆
 秋の蚊
 胡蝶
 松虫
 喜虫
 益母草
 番椒
 蔓麻
 蓮花
 早回
 萩乃花
 薤豆

此の虫をく但しのむと
 難し秋風山あり
 冬虫
 初鳥狩
 八月
 八朔
 水村祭
 天神祭
 小野祭
 秋の蚊
 胡蝶
 松虫
 喜虫
 益母草
 番椒
 蔓麻
 蓮花
 早回
 萩乃花
 薤豆

白紙の兵帳カイン五日ツルカ 教訓糸ニツリ十日カク 法クのニ日カク

糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク

律ハ懐糸ハナシ十五日カク 志ハナシのニ日カク 志ハナシのニ日カク

宇佐宮糸ウサ十五日カク 桐糸ウキ十五日カク 月ニのニ日カク

月カクのニ日カク 月カクのニ日カク 月カクのニ日カク 月カクのニ日カク

月カクのニ日カク 月カクのニ日カク 月カクのニ日カク 月カクのニ日カク

月カクのニ日カク 月カクのニ日カク 月カクのニ日カク 月カクのニ日カク

名月カクのニ日カク 名月カクのニ日カク 名月カクのニ日カク 名月カクのニ日カク

約事ヨクシ 約事ヨクシ 御霊糸ミタマ十八日カク 粟多糸アヲタ十八日カク

後カクのニ日カク 後カクのニ日カク 後カクのニ日カク 後カクのニ日カク

西院糸サイエン八月カク 西院糸サイエン八月カク 西院糸サイエン八月カク

秋乃糸アキノ 秋乃糸アキノ 秋乃糸アキノ 秋乃糸アキノ

蒲カクのニ日カク 蒲カクのニ日カク 蒲カクのニ日カク 蒲カクのニ日カク

糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク

糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク

糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク 糸カクのニ日カク

七十三

つんぎう 尾花うりくのあひまゝ
えやまゝ
あまゝ
あまゝ

わさきも 紙草むら
老母草
あまゝ

義豆 文豆 油うひく
茸特
あまゝ

あまゝ 平草 上ぬいらち 崩さけ
松皮
あまゝ

連綿 曉田ひつち田名
赤草
あまゝ

子葉乃 去蒸 紅紫餅
小瀑江餅
あまゝ

尾越の鴨 網代打 衣お
袖丸霜
あまゝ

あまゝ 別定 秋さき
あまゝ

ゆき 霜踏鹿 鱈葉
新造 衾
秋造
冬ちり 冬と中川 住吉林道
三十日

○冬 元英 上天 玄帝 律檀 羽音

十月 妙多月 良月 玄冬 折本 素正

文衣 神送
あまゝ

おりのり 一日夜よ荊楚 進炉炭 燻燻會

焦糟と食 のり食之 亥子乃餅 十月

冬立 冬止 村場治音 殘菊 音

建平忌 音 十夜乃忌 音

真福寺法念 音 維广舍 十月 金比羅 音

御新講 十三日 下元日 十月 水官解厄 音

東福寺 音 忌日 十六日 夷講 音 大社 音

神集 音 出雲 音 神乃留主 音 神速 音 小宮節 音

十月 ホウゴウジ 法勝 音 大業 音 燧用 音

火桶 音 桑乃切 音 初霜 音 川喜 音

此河内 音 志乃丸 音 初霜 音 木枯 音

青女 音 落葉 音 柳 音 冬木 音

松野乃 音 落葉 音 柳 音 冬木 音

萩 音 菊 音 葛 音 冬木 音

枇杷乃 音 菊 音 心 音 冬木 音

冬木丹 音

曆 一日 朔旦冬至 十月朔日冬 定品教見世

發置 一陽乃赤節 十月ハ赤陽ハ月之キウセ 宮源を流

履と武家 履と武家 履と武家

禊 禊と武家 禊と武家

系 上卯日大和住吉大社 穴原 具智と富葛木 鴨紀 修系

家像系 上卯 山科系 上巳 平野系 上申 春日

系 同日 松本系 同日 當广系 率川系 同日 梅

宮系 上卯 尚宗系 同日 中心系 同日 松尾系 同日

大原野系 中子 園韓神系 中丑 言回系 申日

日者系 同日 五節 長耳 杖試

殿上 潤碎 日 將乃使 交申の紐やとるわい 又たを

豊明節舎 中辰日 是ハこと 一の縮と糸又ちうせりて

日言 院乃系 中申 加茂院 乃系 下酉日 東

三條御神系 下卯 里神系 小忌衣 小忌衣

三條御神系 下卯 里神系 小忌衣 小忌衣

三條御神系 下卯 里神系 小忌衣 小忌衣

先神乃心を事一五田のちかしのさるる遠く
びくも後よりふくろの作もは宜くふくろ下一後白
の佐者ありひり亭より乃後あつこと又初乃一吹よ
執事れりあくとを奉る執事乃後之又後白よあり
文字を嫌ふ

●百韻月詠定座

面八白 七のり月詠定座
二面四白 十三のり月詠
三面十白 二のり上座

裏古白 十のり月詠定座
二裏十白 十三のり月詠
三裏四白 二のり上座

十のり
名残車四 三のり上座

十のり
名残車八 月のり七のり月詠乃

百約月詠乃の妻執乃を執るんは切者よゆぐりて神の故を
なす一よりまゝの又母のまゝ一をい下隨もの

●四十四

とく一と云六百韻乃法を初めと名残折とと二折ありと
三二乃初を故きくろ物之母詠乃を時百約乃法と同あり也

●歌仙代巻

面六白 五のり月詠定座
名残車二白 十のり月詠定座

裏十二白 六のり月詠乃のり
名残裏六白 五のり月詠定座

こと後夫人の二面も又後家も是と後へ一但何直とるべし
一第とて披家とる事有りしが是とて物ありて披
ありて一今も其の事とて申すは
一夫人乃御白の披家もあつてやがてこれをて披
房とるべし一夫人乃白の披家もあつてやがてこれをて披
ちとて納めしむとてこれをて披家もあつて
一夢想の念の及ぶをて懐帝より又其れ上りて
一懐帝とて申すは是の二懐とて懐帝とて申すは是の二
懐帝とて申すは是の二懐とて懐帝とて申すは是の二

よしてひくまて枕筆をてらるるて又申すは是の
懐帝とて申すは是の二懐とて懐帝とて申すは是の二
服の事ありてをて枕筆をてらるるて又申すは是の
とて申すは是の二懐とて懐帝とて申すは是の二
ありて枕筆をてらるるて又申すは是の二
一夫人乃白の披家もあつてやがてこれをて披
御見ありてをて枕筆をてらるるて又申すは是の二
て夫人御見ありてをて枕筆をてらるるて又申すは是の二
肝要とて申すは是の二懐とて懐帝とて申すは是の二

